



## 健やか豆知識

第2回

ちくのうしょう

Q. 蓄膿症といわれる副鼻腔炎の「副鼻腔」とは、イラストの示すどの番号をいうのでしょうか。

I ③～④ II ①～④ III ②～⑤



## 長引く鼻づまり、色のついた鼻みずは放っておかないで!!

いつものことだからといって鼻づまり、鼻みずを放っていませんか？ 鼻の奥にある副鼻腔の粘膜が炎症を起こすと鼻腔へ分泌物の排出ができなくなり、副鼻腔に膿がたまってしまう「副鼻腔炎」を引き起こすことがあります。一般に蓄膿症(ちくのうしょう)といわれる副鼻腔炎は、1ヵ月未満で治る急性副鼻腔炎と、長く続くことで起こる慢性副鼻腔炎に分けられます。多くは風邪などのウイルスや細菌などの感染が原因で、ほかに喘息やアレルギー性鼻炎、ポリープによることもあります。症状は、鼻づまり、粘り気のある色のついた鼻みずのほか、頭痛や体がだるくなったり、ニオイがわからなくなったりします。

治療法は、お薬を服用する、たまっている膿を出して鼻の中をきれいにする、お薬が入った蒸気を鼻から吸うネブライザー療法など、まずは内科的治療を行い、治らない場合は内視鏡による手術を行う場合もあります。

子どもは副鼻腔の空洞自体も狭いので、膿がたまるとすぐにいっぱいになって喉へ垂れてきます。また、鼻と耳をつなぐ耳管が大人に比べて水平になっており、原因となる細菌やウイルスなどが耳へ入りやすく、中耳炎にもなりやすくなっています。

慢性副鼻腔炎は風邪でぶり返したり悪化したりするので、ふだんから風邪をひかないように注意し、いつまでも鼻づまりや鼻みずが続くような場合は、早目に耳鼻咽喉科を受診しましょう。

監修 和田 弘太 東邦大学医療センター大森病院耳鼻咽喉科 教授

< II 掘り >

高田製薬株式会社

〒336-8666 埼玉県さいたま市南区沼影1丁目11-1

高田製薬

www.takata-seiyaku.co.jp

さらに詳しい情報は  
ホームページで! <<<

⇒さらに詳しい情報は「クイズ解説」をご覧ください